



# 陽光

Vol.8  
通巻 64号

## 「自主クラブ」の年度末

3月に入ると、「自主クラブ」（以下：クラブ）では、活動のふり返しをして、来年度も継続するか否かについてのクラブ総括をします。

クラブは、発起人のユーザー3名が「クラブ活動申請書」を光風会に提出し、スタッフ、理事長の確認を経て了承された後、最長1年間にわたり活動を行います。申請の内容には、実施日や金銭、講師の有無等、様々な確認事項があります。そして、年度末には、活動に対しての総括を行うのです。

2頁の表2は、全クラブの活動状況です。「お針子さん」「お茶クラブ」「よそうやさん」のように10年以上継続しているクラブや、「デンゲルナ」「写楽」等の始まったばかりのクラブがあります。今までには、一回の旅行を計画し実行するという「旅行クラブ」もありました。3年前から、笠間地区でのクラブ活動も動き出しています。

今回、発起人をしているユーザー、発起人を経験したことのあるユーザーに、クラブを振り返ってもらいました。仲間を集め、クラブを作り上げていく中で、活動のおもしろさや継続する際の苦労等について、各自の感想を3頁に掲載しました。

個々人が好きなことを自分のペースで行うのではなく、仲間と協働してクラブの目標を達成する過程には、一人では味わうことの出来ない満足感があります。

また、終了になったクラブでは、「クラブメンバーのことを考えられなかった」「運動の楽しさを共有できなかった」等の具体的課題が見えました。この経験は、クラブ活動の新たな立ち上げや、仲間関係をつくる際に生かすべき内容です。

2015年度がスタートしました。「風（FOO）」や「光（KOO）」の活動室での会話の中で、クラブ活動の発足につながる話題が出てきます。「〇〇好きなんだ」「〇〇に興味ある」などといった話題がおしゃべりとして終わらずに、クラブへと広げていけるよう支援できるかは、スタッフの課題です。

(編集子)